

野生イノシシにおける感染拡大を受け、2021年度には新たに19県を経口ワクチンの散布対象に追加しました。経口ワクチンについては、散布開始から2021年度末までの間に28都府県で約153万個を散布しています。

また、野生イノシシの密度を減らして感染抑制を図るために、野生イノシシの感染が確認された地域では野生イノシシの捕獲を強化しているところです。

### 発生の特徴と衛生対策

発生に伴って実施された疫学調査の結果、2021年度中の発生（全てワクチン接種地域内）の多くは、離乳舎のワクチン接種前後の豚で発生していました。また多くの事例で、発生農場周辺での野生イノシシの生息が確認されていました。発生農場と感染野

生イノシシに由来するウイルスの全ゲノム情報を比較すると、多くの発生事例において、発生農場由来のウイルスに近縁なウイルスが周辺の野生イノシシから検出されており、農場周辺の野生イノシシ由来のウイルスが何らかの要因で農場内に侵入したと考えられています。

ワクチン接種農場であっても、母豚毎にワクチン接種適期があり、実際のワクチン接種のタイミングとずれが生じることから、必ず農場内には感受性個体が存在します。このため、豚熱感染イノシシが周囲にいる環境において、ワクチン接種のみで飼養豚における感染を防ぐことは困難です。こうした状況を踏まえ、豚飼養農場に対して豚舎への出入り時の消毒などの衛生対策の徹底や、物理的伝搬の要因となる小型動物の侵入防止、農場周辺の樹木の伐採・整理整

特1-3図 2021年度末時点での経口ワクチン散布対象県

- 飼養豚陽性発生県【17県】：赤色
- 野生イノシシ陽性発生県【27都府県】：赤色(沖縄を除く) 橙色
- 経口ワクチン散布対象県【38都府県】：赤色(沖縄を除く) 橙色 黄色
- (うち斜線の県は令和4年4月26日までの散布実績なし)
- 経口ワクチン未対象県【9道県】：灰色 赤色(沖縄のみ)
- (うち斜線の県は経口ワクチン散布の事前準備を開始)

